

# 失われる自然

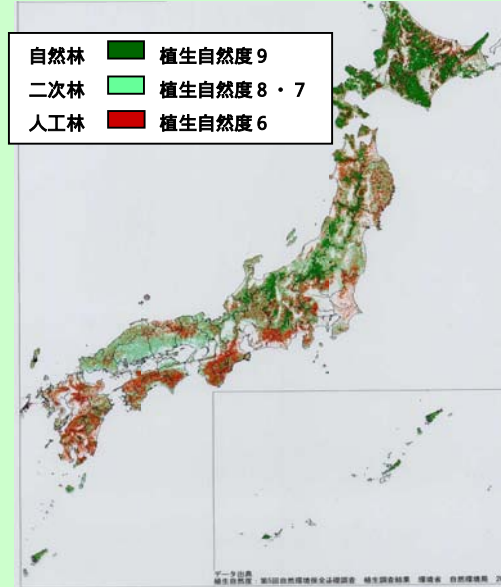
- 自然植生の減少・分断化が進んでいるほか、藻場・干潟、自然海岸等の沿岸生態系の人工化が進行しています。
- 我が国に生息・生育する動植物種の多くが絶滅の危機にさらされています。

自然植生 (植生自然度10・9) は国土の2割以下  
戦後、干潟面積の約4割が消滅

干潟面積の推移



我が国の森林植生の分布状況



脊椎動物、維管束植物の  
約2割が絶滅危惧種に

分類群	総種数	絶滅危惧種	割合
脊椎動物	約1,360	245	約18%
維管束植物	約7,000	1,665	約24%

ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類及び汽水・淡水魚類

# 過疎化による里地里山の危機

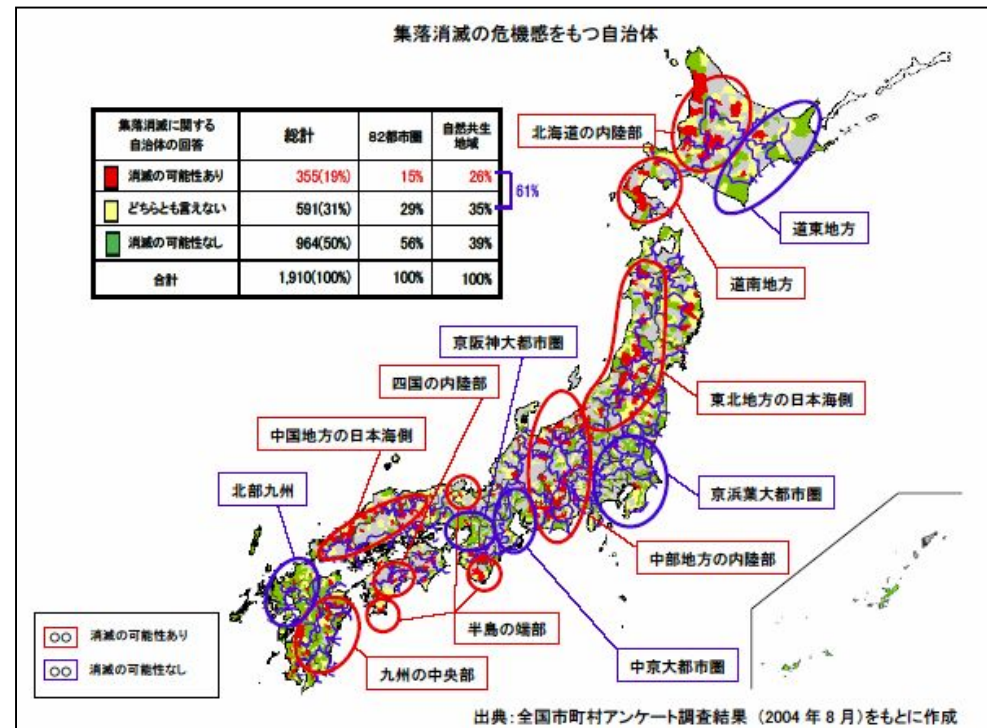
➤ 地方部に位置する里地里山地域等では過疎化が急激に進展しています。「過疎対策の現況」(平成17年7月総務省)によると、過疎地域にある約49,000の集落のうち、約10%が集落機能を維持することが困難になっているなど、里地里山の維持管理が各地で危機に瀕しています。



里地里山



耕作放棄地



出典: 国土交通省  
「新しい国のかたち『二層の広域圏』を支える総合的な交通体系 最終報告」

# 人と鳥獣とのあつれき

- 過疎化や高齢化の進展等による人の活動や里地里山の管理の低下、少雪傾向等により、中山間地域を中心にニホンジカ等の中・大型哺乳類の生息分布域が拡大し、鳥獣の捕獲数も増加しています。
- 生態系への被害や、農林水産業被害等の鳥獣と人とのあつれきが深刻な状況にあります。

## 分布域の拡大

20年前との比較

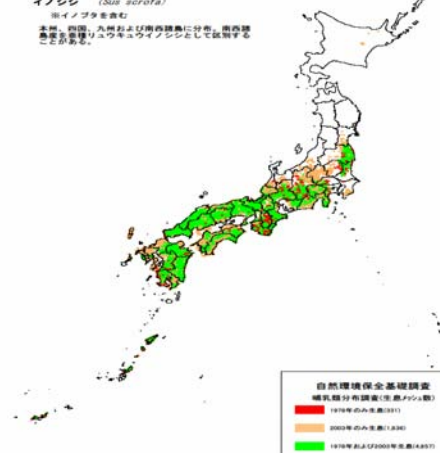
- ニホンシカ 約1.7倍
- ニホンザル 約1.7倍
- ツキノワグマ 約1.2倍
- イノシシ 約1.3倍
- カワウ 約12.4倍

全国分布メッシュ比較図

イノシシ (Sus scrofa)

※イノシシを意味

本州、四国、九州および厚岸圏域に分布。厚岸圏域を境として九州と四国とを区別する



## 鳥獣による農林水産被害等

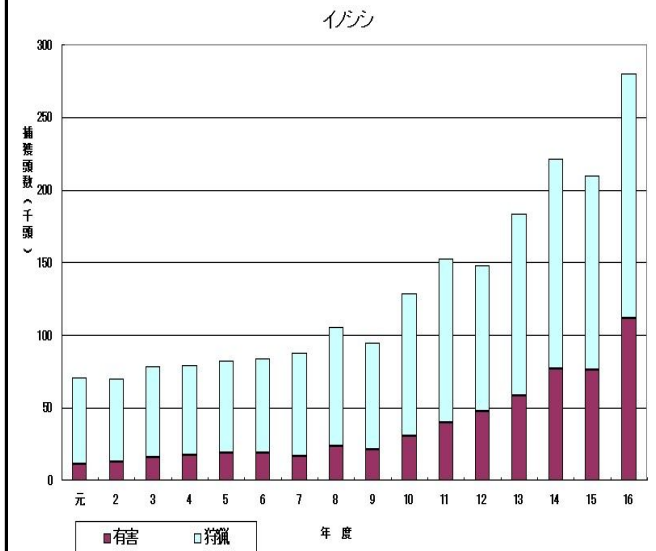
野生鳥獣による農産物被害は全国で約200億円

・うち獣類による被害が6割  
(イノシシ、シカ、サルの3獣で獣類被害の9割)

鳥獣害が耕作放棄地の発生要因の一つ

クマ、イノシシによる人身被害も発生

## 捕獲数の増加



## 自然との共生を旨とする日本人の伝統と価値観

---

- ◆ 自然や環境を単に利用すべき対象としてではなく共感すべきもの、共に生きるべきものとしてとらえる感性や考え方
- ◆ 「もったいない」という欧米言語の語彙にはない感覚に支えられた循環的経済システム構築の伝統

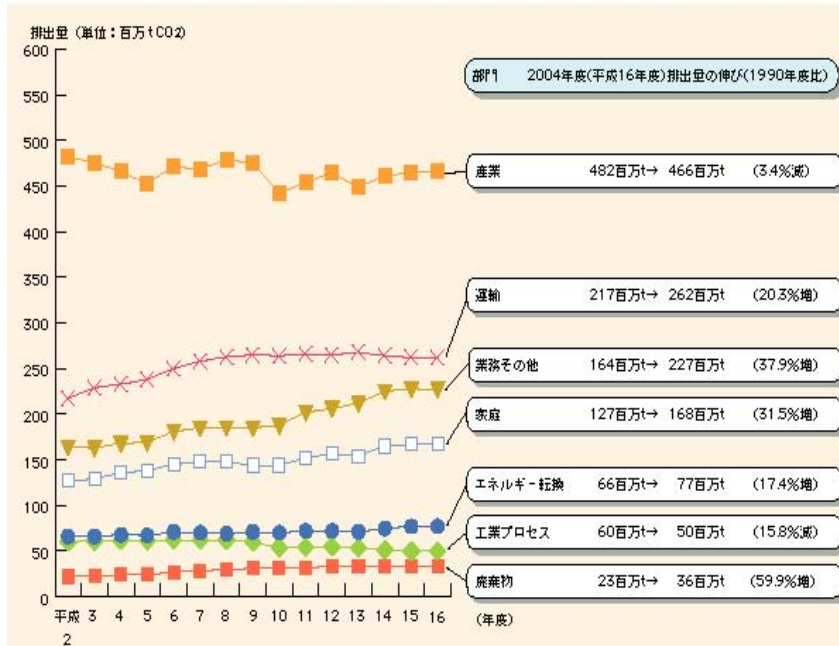
(参考) 環境庁・文明と社会に関する懇談会「文明と環境に関する提言(平成12年3月)」



# 環境保全に向けた企業の取組

- 企業の環境保全の取組は、法規制の遵守にとどまらず、社会的な責任を意識して取り組んでいる例や、企業におけるもっとも重要な戦略の一つと位置づけて取り組む例も多く、環境負荷の削減に向けて引き続き積極的な取組が期待されます。
- 例えば、産業部門からのCO<sub>2</sub>排出量は、我が国のCO<sub>2</sub>排出量の大きな部分を占めるものの、1990年比で増加しておらず、業種によっては1990年比で40%以上CO<sub>2</sub>排出量を減少させた業種があります。

日本の二酸化炭素排出量



注: 温室効果ガスの排出量の計算方法を見直し中であり、昨年度公表値から変動している。  
資料: 環境省

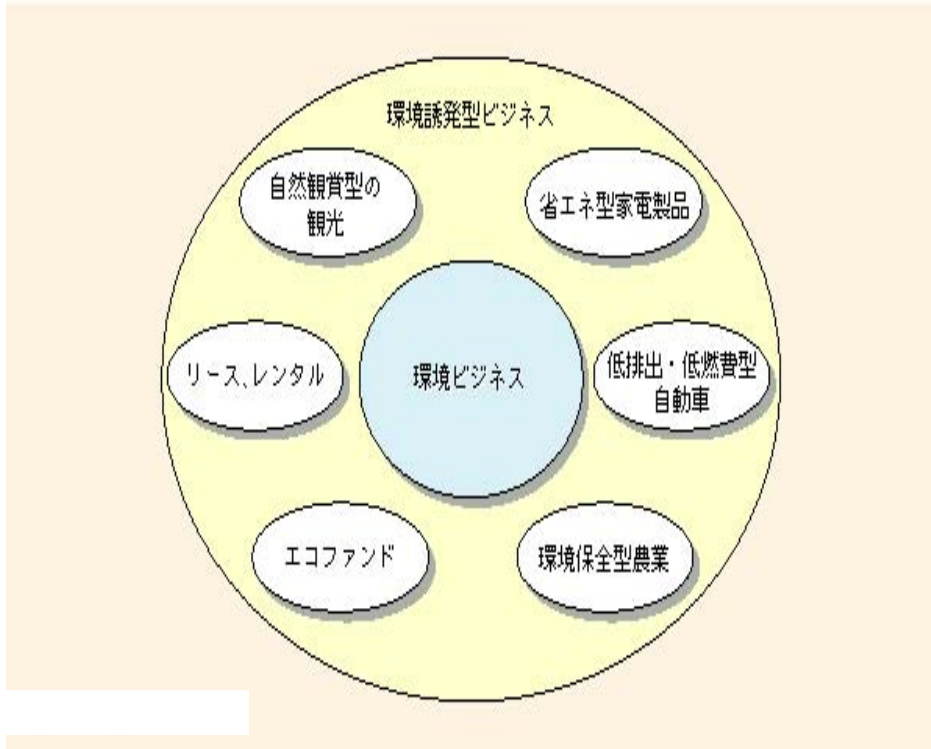
主要なCO<sub>2</sub>排出業種

業種	CO <sub>2</sub> 排出量 (万tCO <sub>2</sub> )	1990年比
電気	37,500	+35.4%
鉄鋼	18,195	-6.9%
化学	7,516	+10%
石油	4,479	+35.6%
製紙	2,507	-1.4%
セメント	2,178	-20.6%
電機電子	1,866	+58.0%
自動車部品	740	+3.1%
自動車	575	-24.3%
建設	524	-43.3%

出典: 「日本経団連温暖化対策環境自主行動計画 25  
2006年度フォローアップ結果」

# 環境ビジネス市場の市場規模の拡大

環境誘発型ビジネスの概念図



- 我が国経済の持続的な発展のためには、21世紀の我が国経済のけん引役となる主力産業の構築が必要となっています。
- こうした中、消費者の意識の変化、環境制約への対応等を背景とした市場のニーズの拡大等により、環境に関わる市場・雇用の規模が今後大きく伸びることが予測されています。

環境誘発型ビジネスの市場規模及び雇用規模の現状と将来予測についての推計

	市場規模（兆円）		雇用規模（万人）	
	2000年	2025年	2000年	2025年
環境誘発型ビジネス	41	103	106	222

# 世界最先端の環境技術と商品開発力 -温暖化対策技術-

- 例えば、太陽電池については、世界市場の5割近くを日本勢が占めており、ハイブリッド自動車についても、日本は世界最先端に位置しています。

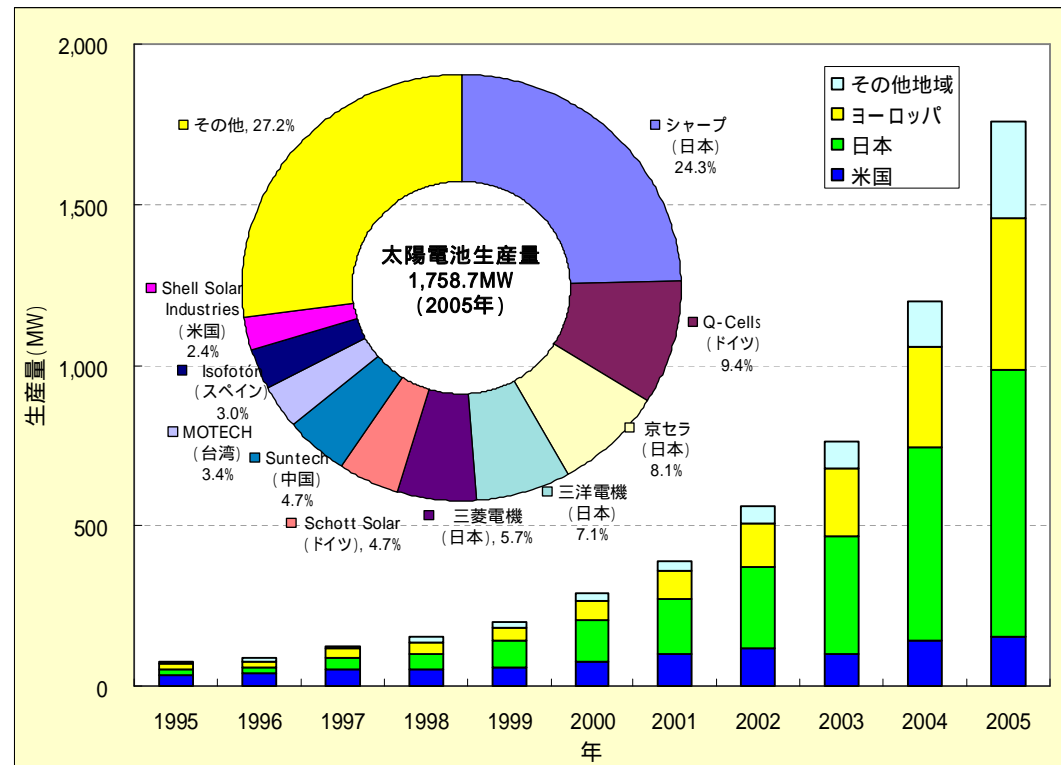
太陽光発電



ハイブリッド自動車



太陽電池生産量推移とメーカー別シェア



出典: PV News 2006, Vol3,4より環境省作成

# 世界最先端の環境技術と商品開発力

## -リサイクル技術-

- 各種リサイクル法の整備などによるリサイクルの制度化を契機に、より高度なりサイクル技術の導入が進展しています。
- 例えば、非鉄金属の製錬技術を活用した工程内スクラップや、廃電子機器・廃基板などからの貴金属・希少金属の回収・リサイクルや、使用済みペットボトルを科学的に分解してペットボトルの原料に戻す「ボトルtoボトル」の技術の実用化等があります。

非鉄金属の製錬所において、金やインジウム等の回収・リサイクルを世界的にも高い水準で行っています。

希少金属の回収・リサイクル



PETボトルの「ボトルtoボトル」リサイクルの流れ

